

は平均で年1・6%増加し、17年には過去最高の5

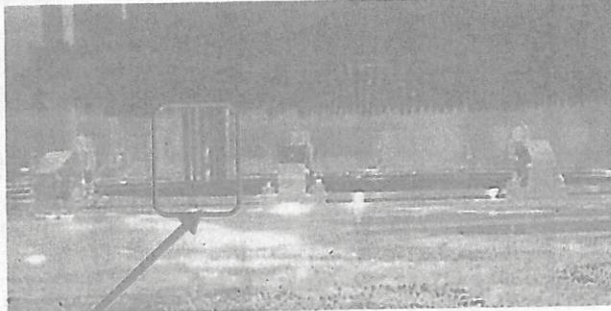
世界600億 500 400 300 200

析報告書は、強い調子でこの事実を指摘した。

候変動枠組み条約の締約国会議で、自国の削減目標を

れるだろう。

伊方3号定検 制御棒誤って抜く 核燃料取り出し準備中



伊方原発3号機の原子炉内で、上部炉心構造物と一緒に引き抜かれた1体の制御棒(矢印) 12日午後(四国電力提供)

県は12日、定期検査中の四国電力伊方原発(伊方町)3号機で、燃料集合体の取り出しに向けて上部の炉心構造物をつり上げ作業中、本来は燃料集合体の中に残すはずだった制御棒48体のうち1体を引き抜く異常が発生したと発表した。四国電力によると燃料取り出し作業に遅れが出る見通しだが、どの程度かは不明。環境への放射能の影響はない。

制御棒(約4・9t)は燃料の中に挿入すると、核分裂反応を抑える「ブレーキ」の働きをする。県や四電の説明では、3号機は定検のため制御棒を挿入し、

12月26日から原子炉を完全停止していた。11日に原子炉容器のふたを取り外し、12日午前9時半から容器内の上部炉心構造物につながる制御棒を切り離す作業を実施。つり上げを開始したところ異常が認められ午後0時24分に中断した。

午後1時20分、制御棒1体を切り離しておらず、上部炉心構造物と一緒に引き抜かれているのを確認。県には午後1時55分に通報した。原子炉容器内で核分裂を抑えるホウ酸の濃度を高めていたため燃料の温度変化はなく、午後6時45分に制御棒を再挿入したとして

いる。県は即時公表のA区分異常と判断した。四電は13日午前0時からプルトニウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料を含む燃料集合体157体をすべて取り出す予定だったが、遅れが出る見通し。異常のあった制御棒の切り離しが完了すれば、燃料の取り出し作業と並行して原因調査を行うことなどを検討中。送電再開は3月29日の予定だったが、影響が出るかどうかは不明。

定検中の制御棒切り離しで異常が起きるのは初めて。切り離しが完了しているかどうかを確認する検査は行ったが「問題なし」との作業記録が残っている。

制御棒は原発運転中に地震などの異常事態が発生した場合、原子炉上部から切り離されて自重で落下し、原発を緊急停止させる重要な役目がある。ただ県や四電は今回のトラブルは「緊急停止時の切り離し

とは異なる部位で発生したとみられ、異常時への影響はない」としている。

(二宮京太郎)

中東安定へ連

首相、サウジ要

【リヤド共同】田中首相は12日(日本時間同)、サウジアラビアの首都リヤドでサルマン国王ら同国要人と相次ぎ会談し、中東3カ国歴訪の日程を實質スタートさせた。米中東イランの対立の中、ファイサル外相との会談で地域安定化に向けた緊密連携で一致。「中東情勢が緊迫の度を高めていることを深く憂慮している」と表明するとともに、日本政府として粘り強い外交努力を続けると強調した。サルマン国

王には、サウジが地域安定化に不可欠だとの認識を述べた。

日本は中東地域に原油輸入の大半を頼っており、安定供給は死活的に重要と立場。同盟国の米国、伝的な友好国イランのそれれと良好な関係を維持している。首相が情勢の安定役割を果たせるかどうか焦点となる。

地域大国であるサウジイラン両国は敵対関係にあり、断交が続いている。東不安定化の一因にもな

